

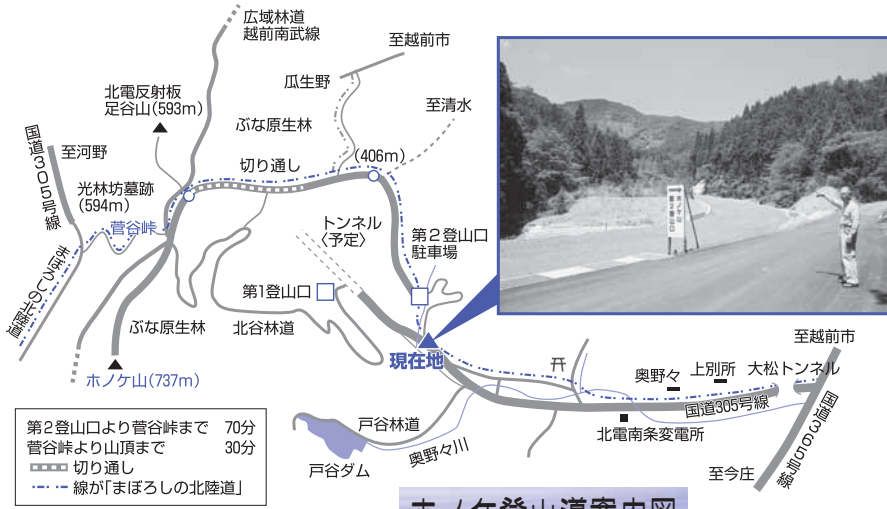
伝えたい

まちの遺産

ホノケ山

—まぼろしの北陸道—

南越前町の要に当たるところにホノケ山(737m)があります。ホノケ山は昔、京の都や府中(武生)に異変を知らせたり、日本海を航行する船に位置を知らせるための「のろし台」があったことからこの名がついたと言われています。



ホノケ登山道案内図

第2登山口から菅谷峠(571m)まで

は、かつては敦賀から府中へ抜ける街道筋にあたり、途中には樹齢300年といわれるブナの原生林があります。ブナの木はたくさん水を蓄えていることから、この辺りは「みどりのダム」と呼ばれています。また、この中を数百mにわたって、深さ6mにおよび「切り通し」が続いています。数百年にわたって人馬が削り取ってきたものです。太古の昔には、この道を通って府中方面への塩が運ばれたことから「塩の道」あるいは若狭脇往來・古北陸道とも呼ばれ、軍事・経済上大事な役割を果たした道です。自然の神秘と歴史のロマンを感じさせてくれます。ですが、この道に関する確かな記録が少ないため「まぼろしの北陸道」と呼ばれています。

一向一揆との戦いに敗れ、この地で自刃した、朝倉の武将佐々布光林坊(天正2年)の墓跡や鳥山跡があり、山頂付近には越前打刃物に使った「かんじや炭」を焼いた、無数の床場跡もあります。

山頂からは丹南の平野や敦賀湾・日本海が眼下に見え、天気の良い日には白山連峰の山々や丹後半島が望める素晴らしい眺めです。自然が多く残る山として親しまれています。

家族向きの登山コースです。若葉が香る5〜6月頃と、紅葉と落葉を踏みしめながら「切り通し」を歩く10〜11月頃は、楽しさがさらに大きくなります。

ハイキングがてら、歴史の足跡をたどってみてください。

(藤木幸雄…町文化財保護委員)

和の風 町長随想

増澤善和

街道ロマン調の

今庄小学校(一)

山や川の大自然に溶けこみ、今庄宿・北国街道・JRなど新旧の街道ロマンに囲まれた素晴らしい今庄小学校の新校舎が完成した。その特徴を紹介する。

① 研究集会による企画設計

都市の学校建設では行政と設計事務所のみで設計されがちであるが、地元指向を重視する今庄小の場合には実際に使う人たちによるワークショップ(研究集会)の意見が集約された。

a. 教師グループ(35人)

今庄小学校(13人)湯尾小学校(13人)今庄中学校(9人)の校長から調理師・用務員まで幅広く選ばれている。

b. PTAグループ(20人)

現・旧PTA役員から地域利用グループ(5人)

c. スポーツ・文化活動代表者

その他(13人)

d. その他(13人)

行政(教委・建設課4人) 設計者(三事務所6人) 助言者(建築学者等3人)

また、全体会だけでなく、a

b c の各グループ別の研究集会や、各部門別(管理諸室・普通教室・特別教室・体育関連・給食関連・外構)の各班に分かれた研究集会も開かれた。

② 宿場町のような学校

一階を「まち」、二階を「いえ」とする二層の空間構成とし、折り重なるいらか(瓦)屋根は宿場町今庄の町並みをデザインモチーフとしたもの。一階は災害に強い鉄筋コンクリートとし、職員室などの管理ゾーン(代官所・役場)と特別教室ゾーン(工房・寺子屋) 保健室(養生所)が並び、その中心部に12m級の今庄産杉の磨き丸太柱が11本立つ今庄ホール(ひろば)がある。その東側にはランチルーム・調理室(食堂・旅籠)と続く。これらをつなぐ廊下(街道筋)やひろばは、正に「羽根曾おどり」に似合った空間とも考えられる。

この廊下の最北端には、探検の森に囲まれた鎮守の杜のような音楽堂があり、お祭りの笛太鼓や歌声が聞こえてくるような雰囲気ゾーンとなっている。

(以下次号へ)